

令和3年度学校評価アンケートの考察

【生徒】

◇授業について

⑥「授業や行事などの中で、学校以外の人から学ぶ機会がある」86.6% (昨年度に比べ4.9%増)

⑪「授業では問題を追究する学習が多くあり、積極的に取り組んでいる」96.5% (1.4%増)

⑬「道徳や教科の授業を通し、命の大切さを学ぶことができる」81.1% (7.5%増)

・⑥、⑪は、昨年度よりも増加した。コロナ禍でも、昨年度よりもダイナミックな追究授業を行うことができ、校外への取材や外部団体との交流を行うことができたことが増加につながったと考えられる。⑬は、道徳の教科化に伴い、今まで以上に道徳教育に力を注いできた成果といえる。

⑩「授業では友達の見聞や感想をよく聞くようにしている」97.4% (3.3%増)

⑧「授業は分かりやすく楽しい」90.6% (1.1%減)

⑨「授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」67.7% (0.1%減)

・⑩は、年々増加している。他の生徒の意見に注目して授業に臨む姿勢は強い傾向にあるが、⑨からは、積極的に授業へ参加できている生徒は少なく、一部の生徒の意見で授業を展開しているともいえる。また、⑧は、9割の生徒が肯定的な回答をしているものの減少している。新研究のもと、本校の特色ある授業の中で、生徒が主体的に授業へ取り組むことができる教師の支援のあり方について共有を図り、改善していきたい。

◇行事・生徒会活動について

③「学校の行事(体育大会・文化祭など)は楽しく、積極的に参加している」96.9% (2.6%増)

・例年よい結果を収めている項目である。Aの回答は、6.4%増であった。コロナ禍ではあったが、1年生の宿泊行事以外は、感染症対策をしながらも、例年に近い形で実感できた成果といえる。引き続き来年度も、感染症対策をしながらできることを模索し、子どもの成長を支援したい。

④「生徒会活動は活発で、積極的に参加している」79.3% (9.0%増)

・靴下の色の見直しや自動販売機の設置など、生徒会役員が公約の実現に向けて、主体的な取り組みができていくことが大きい。また、タブレットの導入に伴い、デジタル化を推進し、アンケートを取りやすい環境ができ、生徒一人一人が生徒会活動に参加できていると実感できるようになったことも要因と考えられる。

◇日常の生活について

⑱「私たちの意見や悩みをよく聞いてくれる先生がいる」84.9% (1.3%増)

⑮「学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる」82.3% (2.1%減)

⑯「自分が困ったり悩んだりしたとき、相談できる友達がいる」87.0% (0.6%減)

・⑱は、昨年度の結果を踏まえ、教員が生徒との会話を大切に、きめ細やかな対応をしてきた成果といえる。一方で、⑮、⑯は減少した。要因として、コロナ禍で交流の場が減り、人間関係が希薄化傾向にあるのではないかと考える。生徒一人一人が、学級での存在価値を感じ、不安や悩みを気軽に相談できる環境となるよう、学年や学級で積極的に交流をする場面をつくり、温かい雰囲気づくりに努めていきたい。

【保護者】

◇部活動について

⑨「学校の部活動は、子どもの健全育成のための機能をはたしている」51.4% (2.9%増)

・年々、少しずつ増加しているが、半数近くの保護者は、否定的な回答をしている。部活動については、全国的に外部との連携や委託などの取り組みが進んでいる。動向を注視しながら、本校においても、外部委託や学生ボランティアの活用なども視野に入れ、生徒の思いを大切に部活動の在り方を模索していきたい。

◇保護者との関わりについて

⑫「学校は保護者に必要な情報を適切に伝えている」96.2% (1.1%増)

⑳「学校は各家庭に信頼感と安心感を十分に与えている」94.8% (0.5%増)

・昨年度より増加しているが、Aの回答は減少している。共有通信の発行や個々面談で教師と保護者だけで話す時間の確保等により、学校との信頼関係を築くことはできているが、日々の活動が十分に伝わっていないことが要因として考えられる。HPの積極的な更新を行い、日々の生徒の活動の様子を発信していきたい。

⑯「本校のPTA活動は積極的に行われている」97.2% (3.9%増)

・各部会が工夫を凝らした形で行事を計画し、多くの保護者に参加をしていただいた成果といえる。今年度の経験を生かし、保護者同士が繋がっていくことができるPTA活動を継続していきたい。